

心の窓



校訓：かしこく やさしく あかるく つよく

令和4年1月14日（金）

南関町立南関第四小学校 学校だより

No.36

文責：松永 尚子

冬休み明け集会を行いました。

1月11日（火）冬休み明け集会を行いました。ちょっと長めの冬休みが終わり、いよいよ後期後半が始まりました。私からは、「後期後半も四小のめざす子どもの姿『気持ちいいあいさつ』『よく聴き、よく話す』『まわりを美しく』を頑張りましょう。特に、自分の『めあて』『目標』を決めて、新しい気持ちでチャレンジしましょう。」と話しました。今年度、子どもたちが学校に来るのは、あと50日しかありません。そんな中、年末からの新型コロナウイルスの新しい変異株（オミクロン）が急激に感染拡大をしています。13日から、南関きずな解放子ども会の学習会はしばらくの間、中止にしました。また、昼休みに異学年で仲良く遊んでいましたが、しばらくの間は、同学年で遊ぶようにしました。学習活動も感染リスクの高い活動はしばらくできないことがあります。こんなスタートにはなりましたが、みんなで、元気に頑張っていきます。後期後半もどうぞよろしくお願ひします。



読み聞かせの会クローバーの皆さんおめでとうございます。

四小の校長室には、たくさんの絵本が置いてあります。また、「くりとぐら」のかわいぬいぐるみ、そして、「読み聞かせの会クローバーさんへ」のたくさんの賞状があります。これまで、長い間、四小の子どもたちに読み聞かせをして、豊かな心を育てていただいているクローバーさんですが、このたび、公益財団法人伊藤忠記念財団が募集された「2021年度子ども文庫助成」に応募し、見事、クローバーさんが助成先に決定されました。おめでとうございます。この事業は「子どもたちに本を届けることを目的に読書啓発活動を行う民間のグループを対象に助成する」というものです。クローバーさんには、今年度、コロナが落ち着きはじめて7月から各学級に入って読み聞かせをしていただきました。朝の短い時間ですが、季節や行事にあった様々な本を読み聞かせしていただいています。この機会に、子どもたちがさらに読書好きになりますように。



やっぱり冬には縄跳びでしょ！

1月12日（水）、4年生の体育では、縄跳びをやっていました。前跳び、後跳び、駆け足跳び、綾跳び・・・など、いろいろな技に挑戦していました。縄が足に当たって「いたーい」と言いながらも、みんな、よく頑張っていました。ペアで、お互いに数え合って仲良くやっている姿を見て、「冬にはやっぱり縄跳びよね」と思った自分がいました。私も、小学生のとき、冬に縄跳びをやっていた記憶があるからです。

そこで、ちょっと調べてみました。すると、冬に縄跳びをするのは、小学校の授業が始まりだそうです。春や秋には運動会をする学校が多く、陸上運動や器械運動がされます。夏は、縄跳びには不向きです。熱中症のリスクがあるからです。夏にはやっぱり水泳です。そんな中で、熱中症のリスクもなく、学校としても「なわとび大会」など行いやすい縄跳びは冬に行われるようになったそうです。

縄跳びで、いろんな技ができるようになったり、二段跳びができるようになったり、どんどん上達いってほしいなと思います。



みんなが自分らしく楽しく生きるために

1月11日（火）の午後は、職員研修を行いました。サポートクリエイターや教育カウンセラーとして県下各地で活躍しておられる松本ゆうこさんをお招きして講演をお聞きしました。「ハートとスキル」という演題で、共生社会を実現するためにいかにインクルーシブ教育が大切か。子どもたちが自分の持てる力を発揮するために私たち教師は、どんなスキルを身につけることが大切か・・・などについて、具体的な手立てや支援の方法を交えて、お話ししていただきました。子どもたちが、「自分でできる力」、「人に頼む力」、「人を理解し助ける力」を身につけるために、子どもたち一人一人のニーズに合わせて支援していきたいと強く思いました。四小のみんなが、みんなと一緒に、誰もが、楽しく、自分らしく生きることができるよう頑張ります。

